



No.46 2010.1.

ユニフェム よこはま

UNIFEM YOKOHAMA NEWS

目 次

チャリティコンサート	1
上映会&トーク	1
D V特集	2~3
内閣府男女共同参画局報告	2
落合恵子さん講演	2
アフガニスタンのDV	3
国連の暴力根絶キャンペーン	3
秋のイベント参加報告	4~5
ユニよこの協力者たち	5
上映会&トークから	6
ネパールだより	6
会員のページ	7
ショップ訪問記	7
国内委員会ニュース他	8

ユニフェムよこはま設立15周年記念チャリティコンサート

聴衆を魅了したチェロ&ピアノDuo

9月25日(金)、アートフォーラムあざみ野にドミトリー・フェイギンさんと新見・フェイギン・浩子さんご夫妻をお迎えして、ユニフェムよこはま設立15周年記念チャリティコンサート「チェロ&ピアノDuo」を開催した。

プログラムは叙情豊かなフォーレのエレジー、アレン斯基の4つの小品に続き、ラームスのチェロソナタ第1番、休憩を挟んでベートーヴェンのチェロソナタ第4番、ショスタコーヴィッチのチェロソナタop.40とロマン派から現代に亘る贅沢なものであった。

第1回ショスタコーヴィッチ室内楽国際コンクールで(Duo) 優勝されたご夫妻が、ショスタコーヴィッチの誕生日に当たる9月25日に彼のチェロソナタの演奏とあって聴衆の期待も高まった。機智と諧謔に満ちた2楽章のスケルツオ、暗くて物悲しい叙情に満ちた3楽章ではご夫妻ならではの息の合った素晴らしい演奏が聴衆を引き付けて止まなかった。

チェリストのドミトリー・フェイギンさんはチェリストの両親(父はロストロポーヴィチと並び称される)の下に生まれ、母からチェロの手ほどきを受ける。モスクワ音楽院・同大学院で学ばれた後、ロシア内外で演奏活動をされる一方、モスクワ中央音楽学校、東京音楽大学、ぐらしき作陽大学音楽部で教鞭をとっている。

ピアニストの新見・フェイギン・浩子さんは桐朋学園高等音楽学校卒業後、ハンガリーブダペスト音楽院、モスクワ音楽院で研鑽を積まれた後演奏活動をされ、モスクワ音楽院連続コンサートにもご夫妻(Duo)で出演されている。

重厚で心搖さぶるチェロの音とピアノの美しい音色と音の響きが醸し出すデュエットに聴衆は時の経つのを忘れ、アンコール曲ラフマニノフのヴォーカリーズやサンサンスの白鳥に余韻を残しながらコンサートは終了した。参加者から「素晴らしいご夫妻のハーモニーに感動した」「チェロの主役の音色とそれを引き立てるピアノがきれいだった」「プログラムも素晴らしく熱演だった」など賞賛の感想が沢山寄せられた。

(事業部会 西村尚子)



演奏するフェイギンさんご夫妻

「子供の情景」上映会&トーク

11月28日(土) アートフォーラムあざみ野で市民・NPOがつくる男女共同参画事業としてユニフェムよこはま主催、映画「子供の情景」の上映会が開催された。

この映画の舞台はアフガニスタンのバーミヤン。かつてこの地でイスラム原理主義勢力のタリバンによって歴史的仏像が破壊された。今なおテロ戦争の中心となっているアフガニスタン。戦争の悲劇や大人が子供に与える影響の重大さを強く訴える映画であった。

上映後、「希望の学校」代表の駿渕(スルタニ)トロペカイさんのアフガニスタンについての現状を伝えるトークがあり、重いテーマに集まった160名近くの参加者たちは真剣な眼差しで聴き入っていた。終了後のトロペカイさんを囲んでの交流会にも30名以上の方々がセミナールームに集まり、熱心にアフガン支援に向か、今、私たちは何をしたらよいかなど活発な意見交換が行われた。トロペカイさんのトークの概要及び交流会の話は、P6をお読みいただきたい。

(広報部会 樽谷文代)



上映会場入口風景

ドメスティック・バイオレンス(夫婦間暴力)

ドメスティック・バイオレンス(DV)は女性問題にかかわっていく上で避けて通ることができません。今回は日本国内委員会が8月28日開催したイベントを通してこの問題について考えてみます。

内閣府男女共同参画局の報告

配偶者暴力防止法および関連する施策について：推進課長 藤澤美穂さん

DVの被害にあった女性が「ノー」と言うための手立てとは、DV防止への支援とは、等の素朴な疑問を抱いて参加した。推進課長藤澤美穂さんから内閣府男女共同参画局における配偶者暴力防止法及び関連施策について、DVの特性、具体的な実態把握、法律の概要、基本方針、施策の内容等の報告を聞き、キャンペーンの必要性を痛感した。DVの特性では、配偶者からの暴力は外部から発見が困難な家庭において行われるため、被害が潜在化・深刻化しやすい。被害者の多くは女性であり、男女平等の実現の妨げとなり、配偶者に対して従属的になること自体もマイナス状況のこと。配偶者からの被害(平成20年度内閣府の調査)では、身体的暴行、心理的攻撃、性的強要のいずれか1つでも受けたことがある女性は3分の1ほどもあり、中には命の危険を感じた経験者も13.3%と高い比率。平成20年度の警察における暴力相談等は

約2万5千件、検挙件数と被害者の性別では圧倒的に女性が多く、この10年間の夫から妻への犯罪の検挙状況は、殺人件数で同数、傷害で5倍、暴行で30倍ほどに高まっている。調査の数字だけでも被害の多さに絶句する状況である。今後も、ユニフェム日本国内委員会がキャンペーンを持続的に推進することにより、DV被害女性が支援を求め、自立に向けて一歩前に進む気持ち、勇気につながることと思われる。

また、報告を聞き、関係諸機関が連携を強めて、配偶者等からの暴力対策の充実強化の取組を一層推進することを強く要請したい。DVの根絶には、女性自身が自己存在感をもつことのみならず、配偶者等の陥った状況へのケア、さらには家庭で見聞せざるを得ない状況下の子どもたちへのケアも必要と痛感した。

(広報部会 桑原正子)



落合恵子さん講演

誰をも犠牲にしない幸福崖っぷちからの生還

落合さんは、怒髪と親しみをこめて呼ばれる独特のヘアスタイルで現れた。まず会場を占める中高年女性を励まし、メイ・サートン(米・作家)の言葉を贈ってくれた。「私から年齢を奪わないで下さい。この年齢は私が働いて働いてようやく手に入れたものです。」そして長い間女性は控えめで従順で受け身であることが良しとされてきたが、もう沈黙を破って自分のために、次の世代のために、そして先輩が開いてくれた道を閉ざさないために、ものを言いつかねばならないと。



アメリカでは既に30数年前から、DVに光が当てられてきた。トレイシー・チャップマン(米・歌手)の「ビハインド・ザ・ウォール」、あの壁の向こう側という歌は、何重もの差別がありながらヒットした。当時はまだDVという言葉はなく、バタード・ウーマン(殴られる女)やショッピングバッグ・レディ(わずかな荷物を持ち逃げる女)といわれた。シェルターはまず白人女性のために作られ、次にアフリカ系、アジア系女性のためと次第に増えていった。20年前にミルウォーキーで実際にアジア系シェルターを立ち上げた女性にも会った。彼女はシェルターを出た後のサポートに動いていた。

DVは心と体、人権、人生に対する暴力である。社会的な隔離(家から出さない)、ブラックメール(脅迫状)

をも含んでいる。何より次の世代に被害者を作り出す犯罪である。DVを見てきた子どもは成長してもトラウマになることが多い。加害者の男性からすると、男は強くなければならないというジェンダーから攻撃的になる。

ドメスティックというよりジェンダーバイオレンスという方が良いのではないか。固定化した性別役割から出る暴力だから。日本では被害女性は、母親や相談員からさえ時として我慢を言われる現状がある。なぜもっと早く逃げなかつたのかと問われることが多い。経済的理由や子どものためということがある。またDVにはサイクルがあり、蜜月期があるので思い直すこともある。人間はそれほど強くはないと思っている。

年間に自殺者が3万人を超える年が11年続いている。子どもの安全のために活動しているCAPは「ノー・ゴー・テル」の3つの権利があると言っている。即ち、いやと言う、逃げる、話す権利である。亡くなつた母とどんな小さな暴力も見逃さないと約束したが、最大の暴力は戦争である。会場にはジュリー・スマール(オーストラリア・歌手)の「マザーズ・ドーターズ・ワイブズ」という歌が流された。母親・娘・妻の3世代にわたつて愛する人を戦争に奪われたという反戦の歌である。

私たちは今半開きの扉の前に佇んでいる、戦争にノーという権利を素手で握っていると、落合さんは最後までパワフルで、これからもものを言い続け書き続けると言い切った。4年ぶりの衆院総選挙を目前に、崖っぷちに立たされた私たちにカツを入れる一時だった。

(広報部会 衛藤栄津子)

～アフガニスタンでは女性に対するドメスティック・バイオレンスが広がっている～

日本国外ではドメスティック・バイオレンス(DV)の状況がどうなっているのかを知るため、インターネットのサイトを探ってみた。以下はボイス・オブ・アメリカという合衆国政府の放送局の報道から拾った記事である。



国連の統計によれば、タリバ
ン政権崩壊後女性に対する暴
力はエスカレートしている。特
に夫から家庭内で受ける暴力
が増加している。ユ
ニフェムのアジア/
太平洋地区プログラ
ムスペシャリスト、スマントラ・グ
ハのリポートによ

るとアフガニスタンでは夫や恋人がかかわる性的虐待のレベルが高い。しかし被害者の女性はDVを訴えることをしない。社会的な汚名となるからである。彼は次のように述べている。「もし女性が外に向かって自分への暴力を訴えれば、世間の人は訴えを起す女性を慎
みのない人とみなす。その上家名を傷つけ、
また家族の恥じをさらすことになる。これこそ女性が
DVを表ざにしない最大の理由である」。

長期にわたって戦争が続いたために暴力が日常化し
た。限られた経済的資源と伝統的な家父長制度により、
女性が被害者なのに人間としての尊厳を守る社会シ
ステムがかけている。彼は続けた。「たとえばアフガニ
スタンの新憲法(2004年1月制定)では男女の平等が保



アフガニスタンの女性は今では選
挙で投票する権利がある

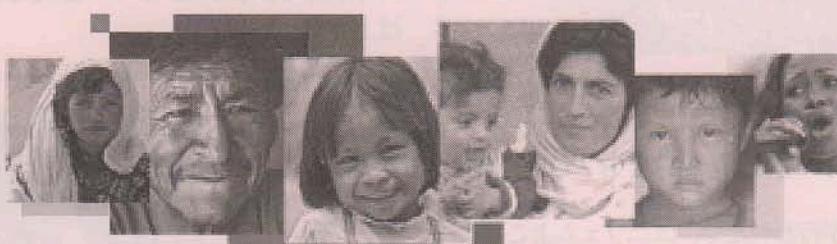
証されている。しかし、このような社会的風土のため、
実際の場では平等でないことが問題である。憲法の主旨
が国の隅々、村のレベルまで正しく広がるようにしなけ
ればならない」。

政府も地域社会もそして家庭内でも、女性に対する暴力を阻止するための努力が充分なされていない。しかしち
グハ氏によれば、この状況も少し変
りつつある。政府が女性向けの国家行
動計画を実施しようとしているから
である。「この女性行動計画は暴力と
女性の人権を守ることに焦点を当
てている。したがってわれわれは、政府
及び国際社会と手を携えてこの問題
に取り組まなくてはならない」。

2001年にタリバン政権が崩壊した。
タリバン時代には女性は選挙権もな

く、学校に行くことも、家の外に働きに出ることも許
されなかった。現在の女性の暮らしは、タリバン時代とく
らべると良くなつた。選挙権もあり、女性の国会議員も
いる。しかし、アフガニスタンの女性の地位はまだ低く、
「二流の市民」のままである。

(翻訳 広報部会 三澤美恵子)



国連事務総長の女性への暴力根絶キャンペーン

2008年、潘基文(パン・ギムン)国連事務総長は世界中で女性・女児への暴力を根絶しようと複数年にわたるUNITE
というキャンペーンを立ち上げました。このキャンペーンは政府、市民社会、女性団体、若者、民間部門に向かつ
て世界的に広がっている女性・女児への暴力をくい止めるために手を結んでいこうと呼びかけるものです。キャンペ
ーンはすでにある国際的法規、政策枠組みにのっとって、女性への暴力根絶を目指すすべての国連機関の仕事の
連携を図っていこうとしています。

事務総長は次のように述べています。「われわれは手を結ばなくてはならない。女性への暴力は、どのような形
であれ、どのような状況であれ、いかなる政治指導者も政府も許容してはならない。今こそ変革のときだ。一緒に
声を上げることでのみこれを実現してゆくことができる」

アカデミー受賞女優、シャーリーズ・セロンが2008年11月に女性への
暴力根絶を目指す国連のピース・メッセンジャーに就任しました。

(翻訳 広報部会 本田敏江)





ユニフェムよこはま



横浜国際フェスタ2009 9/5~6

横浜で行われる国際協力、最大規模のイベント「横浜国際フェスタ2009」がパシフィコよこはまで開催された。多くの国際協力機関や団体の他、リサイクルやエコ団体なども加わり、ショップ販売、舞台イベント、セミナーなど多彩で、会場は子どもから大人まで、在住外国人も多く、大賑わいの2日間だった。

フォーラムまつり 10/4

10月4日（日）、恒例の“フォーラムまつり2009”に参加し、会員16名が大奮闘！暑くて喫茶のケニアティーは売れず、心のこもった寄付品のバザーは、よく売れた割には低価格のため売上額はイマイチ。昨今の世相を反映してか…。来年もご協力お願いします！



フォーラム南太田まつり 2009 10/18

今年はお天気にも恵まれて、正面玄関前での地産地消に取り組む地元農家の野菜販売や苗木の配布で祭りが始まった。ユニフェムよこはまは、3階のフロアでユニフェムの30年を紹介したパネルの展示とグッズの販売で参加した。グッズ販売も馴染となり、売上は上々でした。

アートフォーラムフェスティバル2009 10/24

多彩な催しが行われた中、ユニフェムよこはまは、アート縁日（約80店参加）に出店した。開店早々大勢殺到！「前に買ったアクセサリーがとても良かったのでまた来ました」とか「今度の映画会も楽しみ、チケットを下さい」などリピーターも多く、スタッフ一同、感謝、感謝の一日だった。



磯子国際交流フェスティバル 10/4

7回目の今年は、フォーラムまつりと同じ日になってしまったが。担当4人で頑張った。お天気に恵まれ人出もあり、集会室ではインドネシアの介護士さんの取材をしていた記者の講演があった。ユニフェムよこはまではいつものようにグッズを販売した。新しくモンゴルのお店や韓國のおやつチヂミのお店が増えた。

民間NPOのささやかなお祭りだが、それでも皆知恵をしぼり工夫をして、国際交流への理解を求めて努力している。



秋のイベント参加報告



青葉区民交流センターまつり 11/23

今年も小春日和の下に開催された。いつものテントの中ではなく、フリーマーケットの場所にシートを敷き、会員の持ち寄った品物とユニフェムのグッズを並べた。最後は叩き売りになったがその割には売り上げは昨年より少なかった。それでも地域の中に浸透してきているのを感じた気持のよい一日だった。



yuko コンサート 11/23

「yuko10年コンサート」では、ユニフェムよこはまが後援し、グッズを販売した。ステージのyukoさんは途上国の女性を支援する「ユニフェム」の紹介をし、300人近い観客に向けて活動支援の協力を呼びかけた。ユニフェムよこはまのパンフレットもプログラムと一緒に配布。又、今回のCD売上と協賛企業の物品販売の10%が国内委員会に寄付された。

ユニフェムよこはまの協力者たち

ユニフェムよこはまに協力してくださっている方々や団体を紹介していきます。今回は毎年多額の寄付をしてくださっているファイバーリサイクルネットワークの活動について、代表の服部孝子さんに紹介していただきました。



ファイバーリサイクルって何！？

服部孝子

ファイバーリサイクルとは、つまり繊維のリサイクルのことです。私たちは「古着・古布」の回収活動と呼んでいます。それまで生ごみと一緒に廃棄されていた「古着・古布」はゴミではなく、100%近くリユースやリサイクルできる素晴らしい宝の山であることに気づき、さらにゴミにすることによって環境問題にも悪影響を及ぼすことにも気づいたからです。この活動は市民だけできることではなく、回収業者も共に環境問題について同じテーブルについて考えて頂くために、二者合意システムという考え方で1992年6月に共に活動を始め、現在に至っています。

回収活動をしている中で気づいたことは、和服のリサイクルが業者のシステムの中ではやりにくいということでした。市民から考えると直線断ちで、最もリサイクルしやすいと考えていたのですが、事業者の工場では、綿やウールなどをウエス（機械の油拭き）とか半毛（綿に戻して糸にする）して布に織り直すというもので、和服のリサイクルとは考えられていませんでした。

以上の状況の中から出てきた活動が年2回開催の「リサイクルきものフェア」です。さらにフォーラム南太田で、「木綿の夏」というイベントも開催しています。この活動で得た利益の一部を国外・国内の子どもや女性の自立を助けるために支援活動をしています。そして今年の支援先は、勿論、ユニフェムです。

「子供の情景」上映会&トーク ~駿渓（スルタニ）トロペカイさんの話から~

アフガニスタンは、5千年以上の歴史の中で多くの民族が生まれた。多民族が共存するため、男性は支配力を保つことが重要とされた。女性は男性より能力の無いものとして教育を受けさせないなど宗教上の差別や偏見があった。ベールをかぶり、化粧、香水を禁じられ、大声で話すことや笑うことさえも制約された。結婚は父親が決め、早婚である。女性を物として扱う「バダラゴン(交換を意味する)」や「バド」といって男性が罪を犯した場合、身内の娘を引き渡して和解する習慣があった。

1919年女性解放としてアマヌラ・ハーンの改革があり、1980年以降は社会経済の改革、女性全体の識字化の高まりなど、良い方向へと向かっていた。しかし、その後23年にも及ぶ激しい内戦が続き、200万人以上の女性が未亡人になった。

2001年、アメリカの同時多発テロをきっかけに、アフガニスタンは空爆にさらされたがタリバン政権は崩壊、平和の兆しが見えてきた。トロペカイさんは内戦前に来日し日本に住んでいたが、この時「今こそ何かしなくては」と遙か母国のこと胸を痛めていただけに、駆り立てられたそうだ。そして、トロペカイさんはカブールに「希望の学校」を設立。女性の読み書きと洋裁を教える教室を開いた。「希望の学校」は教育により女性の経済的、精神的自立を支援、女性が人間として権利を認識し判断力を身につけることを目指し、教育の力で社会が変わっていくことを願っている。

内戦当時5%ほどしかなかった女性の識字率も2003年には20%に上がってきている。2006年5月にはユニフェム升本美苗基金支援によりカブール校に保育室ができた。洋裁の授業では、ハサミや針を扱うため、生徒は子どもにすがりつかれると危なく困っていたので、保育室は大変喜ばれているそうである。

(広報部会 樽谷文代)



資料を示しながら語るトロペカイさん

終了後の交流会参加者からの声とトロペカイさんの言葉

- 女性だけでなくアフガンの男性の意識も変えていかなければいけないのでは。
- 映画でのラストシーンの言葉、「自由になりたいのなら死ね」は、ショックで希望がもてない。逃げる気力も失った人たちを元気付けるにはどうしたらよいか…。
- 環境を変えていくしかないのでは…。他国を見て学ぶとか。それには教育が必要。
- アフガンの人々はプライドが高いので、他からの力(支配)は、受け入れがたい。暴力的な力での解決ではなく、教育の支援が大事。
- 男女平等などの法律ができても宗教が阻み、実際にはあまり守られていない。やはり、意識を変えていく教育が必要。



トロペカイさんから繰り返し
語られた熱い言葉
「長い時間はかかるが、
地道な教育支援によって
変えていくしかない」



ネパールだよりⅡ



ネパールの結婚式

～ネパール版「婚活」～

春日山 紀子

ネパールでは、太陰太陽暦によって結婚に適した月が決められています。1月半ばから3月半ば頃までは、街中のいたる所で結婚式を見かける季節です。それに先駆けてやってくるのが、ネパール版「婚活」。ただし、ネパールで「婚活」するのは、結婚する当事者ではなく双方の親たち。親が決めた相手と結婚する見合婚がまだ一般的なのです。親たちは、自分の子供が結婚適齢期になると、適当な相手を探し始めます。「適当」とはいっても、同族・カーストであることなどの数々の条件を満たす必要があり、最終的に双方の占星術を見、本当に結婚に適しているかどうかを判断する場合もあります。相手が見つかると、そのあとはトントン拍子で結婚まで進んでいきます。この間、約1週間～1ヶ月という超スピードで済まされるのが一般的。当事者同士、相手をよく知らないまま、ときには、結婚前に1回しか相手と会っていない、それも遠目で見ただけ、というような状態のまま式の日を迎えることも、いまだにあるとか。

カトマンズなどの都市部では、最近では恋愛から結婚に発展するケースも増えています。しかし、結婚前の「恋愛」という過程が女性にとって体裁があまり良くないため、恋愛相手との結婚の場合でも、あたかも親が相手を見つけてきたかのように見繕うことが多いようです。

ところで、私の職場にも適齢期を迎えた23歳の女性がいます。同僚に「まだ結婚しないの?」とからかわれると、「親が最近相手を探し始めたから、見つかったらすることになるんじゃない?」などと、自分の結婚を他人事のようにとらえています。仕事もでき伝統に縛られない女性であるだけに、こんな返事が意外だったのですが、結婚に限ってはやはり親次第となるようです。

会員のページ

*今回はユニフェムよこはま創立当時からの会員に久しぶりに近況をお知らせいただきました。

私が歩けた頃

総務部会 小川節子

歩けなくなって7年になります。5年間は主人が車椅子を押してくれましたが、昨年6月に逝きましたので、娘が代わりに介護をしてくれています。毎日ベットに寝てテレビを見る毎日ですが、昼と夜、介護の人が来て食事その他のお手伝いをして貰っています。週1回の入浴は風呂桶持参で3人の看護師さんで対応して貰っています。今でも半袖のブルーのユニフェムTシャツを着ている時、介護して下さっている人たちにユニフェムの事を説明しています。今年6月に耳疱瘍で熱が出て、伝染するといわれ3日も病みました。10月には、風疹がお腹に出来て、痛い痛いとうめきましたが、幸い皮膚科で抗生物質を貰い、やっと治りました。今、私は若い頃から色々な活動が出来た歩ける幸せのあったことを神様に感謝して80歳になる月日を過ごしています。



遅まきながら…どうぞよろしく

広報部会 衛藤栄津子



はじめましてのご挨拶が大変遅くなってしまいました。故郷横浜に帰ってきてすぐ入会しましたので、はや11年になります。最初の頃はあまりにも自立した皆様の中で気後れしましたが、広報部の開放的な空気を吸い、数年前に理事になり役員会を重ねるうちに、皆様がより身近に感じられるようになりました。今や私にとって無くてはならぬ場所です。

特に昨年の秋、人生最大の不幸に直面しましたが、その折には多くの皆様からあたたかな思いやりをいただき、本当に嬉しく心に響きました。改めて感謝申し上げます。今はおかげさまで元気を取り戻しつつあり、これからも自分のできる範囲で息長く続けていきたいと願っています。改めてどうぞ宜しくお願ひいたします。

「ユニフェムショップ訪問記」

オーストラリアのユニフェム会員 マデリン・ファース

私はオーストラリアの国立大学からの交換留学生として立教大学で1年間学んでいます。またオーストラリアユニフェムの会員であり、以前その職員でした。高校生の時ユニフェムの活動に関わることになりました。私の高校は規模の大きい女子高校で、国際女性デーの祝賀会には毎年ユニフェムを支援するために、生徒の代表を出席させていました。16歳の時、幸運にも故郷のキャンベラで国際女性デーを祝うユニフェム主催の朝食会に学校代表として選ばれ出席しました。この朝食会でユニフェムについて学び非常に感激して、その結果ユニフェムの会員になり、大学3年の時にはその事務アシスタントを務めました。

国際女性デーはユニフェムオーストラリアの最大の行事です。ユニフェムが行う様々な祝賀行事は活動資金を集めるためにも、ユニフェムの国際的な活動を知ってもらうためにも極めて重要です。ユニフェムオーストラリアは1989年に国際女性デーへの支援をスタートさせ、今では全国的な行事となりました。昨年は15000人以上の男女が国際女性デーの行事に参加しました。

今年8月、ユニフェムオーストラリアのスタッフのジョアンナ・マッキントッシュが日本にいる私を訪ねてきました。彼女の滞在中、私たちは何人もの日本のユニフェム会員に会うことができました。そしてユニフェムよこはまの可愛らしい店を訪ねることができたのは幸せでした。この店にとても感激しました。「一年を通して品物を売って基金を作る」という活動を私たちも考えていたからです。ユニフェムの成功を見て感銘を受けました。スタディツアーも興味津々です。私たちはスタディツアーハンには思いも及ぼませんでしたが、日本の数々の成功をみて、オーストラリアでも活動の一つの選択肢として考えても良いと思いました。ユニフェムの国際的な活動を現地でじかに見る機会をつくることは会員に喜ばれると思います。ユニフェム日本国内委員会やユニフェムよこはまの皆様に会えてとても嬉しいです。日本のユニフェムについてもっと知りたいです。ユニフェムオーストラリアのウェブサイトはwww.unifem.org.auです。オーストラリアの活動をみてください。これからも情報を交換し学びあう機会をつくりたいと思います。

(翻訳 広報部会 三澤美恵子)



ショップを訪れた二人
左がマデリンさん

エイボン助成金事業

*** 国際女性デー2010イベント***

～つながる輪・ひろがる和～

日 時 2010年3月6日(土) 13:30~16:30

会 場 男女共同参画センター横浜 ホール

内 容

DV根絶のための講談とシンポジウム

第一部

講談「女と男・すてきな関係」

宝井琴桜(女性講談師)

第二部

シンポジウム「DV根絶のためにできること」

定 員 380人

参加費 無料

申 込 1/14(木)より電話/Fax/Eメールにて
ユニフェムよこはま事務局へ

保育あり(有料)

2010年度ユニフェムよこはま総会

日 時 2010年2月14日(日) 11:00~12:00

会 場 男女共同参画センター横浜

セミナールーム3

議 題 2009年度事業報告・決算

2010年度事業計画・予算

2010~2011年度役員の承認

*終了後、親睦会予定

ユニフェム日本国内委員会ニュース

堺市の誘致により、堺市女性センター内に、ユニフェムのリエゾンオフィスが開設されました(2009年1月半ばから稼動予定)。ユニフェムは近年リエゾンオフィス構想を展開しており、すでに、マドリード、ブリュッセル、アジスアベバで事務所が開かれています。国内委員会がある国での開設は日本が最初のケースで、リエゾンオフィスは国連の出先機関として、政府への働きかけや広報に力をいれるということです。民間の募金を集めユニフェムに拠出する国内委員会の役割は変わらず、今後も途上国で実施されるユニフェムのプロジェクトをサポートしていきます。

日本国内委員会は認定NPO法人に認可されて以来、他団体から、寄付を伴う事業の申し出が増えてきました。十文字学園女子大学では、生協が作成する学生手帳やトートバックの売上の一部が、日本国内委員会へ寄付されます。インターネットのスタートページを作成するエキサイト社は、寄付つきの女性専用サイト「ウーマンエキサイト」を立ち上げました。ユーザーが選択する寄付先のひとつに日本国内委員会が選ばれました。2月末ごろまでキャンペーンは続きます。ユニフェムよこはまの皆様も、ご自分のトップページを「ウーマンエキサイト」(<http://woman.excite.co.jp>)にして、日本国内委員会を寄付先に指定してください。

*新しいお仲間です

宮崎恵子

*ありがとうございました

献品 池田志津子 原田清美 東順子

小川知子 島田みさと

寄付 平野和子 佐野松枝 小川節子

樋口俊子 (敬称略)



ユニフェムよこはま 第46号

発 行 日 2010年1月1日

ユニフェムよこはま

〒244-0816

横浜市戸塚区上倉田町435-1

男女共同参画センター横浜内

TEL・FAX 045-869-6787

E メール unifemyokohama@blue.ocn.ne.jp

Webpage <http://www.unifemyokohama.org/>

編集・デザイン ユニフェムよこはま広報部会